令和3年度年間受賞句が決定しました

あ

かまつ賞

校庭に子ども百人暑い

夏

須藤

楓真

柏城小5年

赤松賞

お

P

₹ 1

っきり紙ひこうきを夏空へ

五十嵐

心

金色に猫

の毛光る初日

0

出

朝早くストーブ係

は動きだす

仁井田

小6

车

根

本

つひもにくやしさのこる運動

会

柏城小

小

桃

佳

ひとり来て秋

の Š

かまる牡丹園

安藤スミ子

年間秀逸句

翡翠賞

時空超え芭蕉に触

れ

る秋

の 空

か

わ

せみ賞

うんどうかい校ちょう先生とジャンポ

関

晶

太

柏城小2年

第9号

令和3年度須賀川市

令和4年3月号

手

の

ひらに空気の

おもみ紙

風

せ

 λ

俳句 ポ ス ١

牡丹賞

牡丹の事だけを詠んだ一句一章と言 われる作り方です。このような作り方 だと皆同じような類想、類句になって しまうことが多いのですが、この句は それを脱しています。「白」のイメージ が燃える色と独自の目を持って表現 されているからです。白牡丹の持って いるものは清楚で儚いという事ばか りではなく、白の中にある真の強さ この句を読んだ誰もが気づかされ ることでしょう。静かな一句の佇まい ですが、その中に生きる力を感じます。

ぼたん賞

健康的でさわやかな気持ちのよい句 です。夏空へ鮮やかに飛ばす紙飛行 機、見上げている少女の眩しげな表 情。たった十七文字の中にたくさんの 内容が盛られています。俳句は省略の 文学と言われます。いらない言葉はで きるだけ省いて、それでいて言いたい ことを表現する、この句からそのこと をあらためて考えさせられました。

渡辺まり子

牡丹

ぼた 白 ん賞

賞

. もまた燃ゆる色なり白ぼたん

大澤 良州

仁井田小5年

等躬賞

須賀川 須賀川. 市立柏城 小 学校

市立仁井田小学校

第2回入選句は、館内 と風流のはじめ館 HP に紹介しています。 https://s-furyu.jp/

白江小6年

渡 邉 心花

かまきりがりょうてをあげてブイサイン 阿武隈小2年

佐藤

心

柏城 城小4年 佐

|
万間

七菜

木船

白方小5年

雪の

朝線路みたい

な通学路

春

0

風

だれれ

かとずっとは

なし

てる

有馬 百恵

柏城小6年

蒼

って初めて出会う蝶のこと ら蝶になるころです。春にな 冬を過ごした虫が、さなぎか

三月十五日から十九日ごろ

菜虫 蝶 と化す

を初蝶といいます。

須賀川を訪れた俳人たち 開催中

-四季のうつろい・時のうつろい

[3月31日まで]

俳人の言葉などと合わせて紹介しています。

100年を寿ぐ シリーズ連句の試み

最初の句)に対し、その情景から次の脇句 桔槹ゆかりの人物の作品を発句(五七五 たり巻いていきます。 本シリーズは半歌仙(十八句)を五回にわ 七)を複数の人で連ねていきます (七七)をつけ、長句(五七五)と短句(七

牡丹俳句大会および牡丹焚火俳句大会の講師 り寄贈いただいた色紙 41 点を四季の写真や











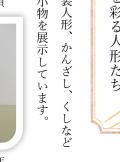
昭和初期



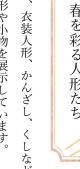












*第一回 一月二十五日

よび館内にて紹介。)第二回は、三月十一日です 川牡丹園主)の句を発句に七人で巻きました。 脇句と第三句のみを紹介します。(歌仙はHP お ○第一回は、 柳沼破籠子(桔槹創立同人・須賀

「鶯の声」の巻

朝の狭庭に鶯の声 春夕焼けオープンカフェは静かにして 木蓮の皆曲がりたがる蕾かな よし子 栄子 破籠子

ごほうびの乗込鮒を手土産に だんだらだんと西の春雲 木蓮の皆曲がりたがる蕾かな 「西の春雲」の巻 道子 はるか 破籠子



すかがわ大人塾

第三回

第三回

お

61

ただき方教室しいお茶の

煎茶道方円流

こども和文化塾

はじめての茶道



茶道表千家

基礎的な茶道 敬うことを教 切に想うこと、 相手や物を大 の礼儀と作法、



お茶

抹茶・玉露・煎茶・番茶・玄米茶



お茶の種類

ほうじ茶・茎茶・芽茶・粉茶

60



茶のいろはを楽 法、道具など、お 茶葉の種類、 日本茶の歴史や

作

しく学びまし

た。

お茶の歴史

日本のお茶文化は平安時代 はじまりは中国 ペットボトル入り緑茶は一九九○年に登場







俳句募集

募集期間 通年

選 募集方法 部 句 門 会 年2回(8月 2月) 投句用紙または葉書 学校の部 般の部・子どもの部

明るく浮き絶つ春だとい

しゅんしゅう 春

3 月

言の葉

愁

長

うのに、ふっともの憂い

別れと出会いのはざまの

気分になること。

穏やかで、うらら かなさまという

青空が広がり、

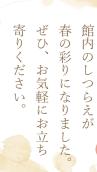
季節だからでしょうか。

意味。春の季語

=七十二候=

な むしちょう







第9号 編集・発行/須賀川市風流のはじめ館

風流のはじめ館かわら版

〒962-0832 福島県須賀川市本町81番地4 電話0248(72)1212